

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童デイサービス あんしん			
○保護者評価実施期間	2025年 6月 15日		～	2025年 8月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2025年 6月 11日		～	2025年 6月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 8月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児一人ひとりの特性や課題に応じた支援をすることを、職員全員が意識できていること	利用児の観察をしっかりとすること。職員一人ひとり感じるものが変わってくることもあるので、意見交換等を行う	利用児それぞれの目標を確認しながら支援に取り組んでいく
2	就園支援、就学支援に向けた取り組みを具体的に進めていること	幼稚園や保育園でどのような力が必要か、小学校入学までにどのような力を身につけさせたいかを職員間で確認しながら課題を考えている	バリエーションを増やして、利用児の興味が絶えないようにしていきたい
3	利用児たちが通所を楽しみにしてくれていること	利用児たちとの良い信頼関係を築く事ができるように意識して支援している	利用児の状況、状態に応じて適切に関わることができるように、今後も利用児ファーストに心がけていきたい

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のコミュニティとのつながりが薄い	平日は、利用児の送迎等で、全員揃ってのまとまった時間を取る事が難しい	まず職員が地域のコミュニティセンター等に足を運び、どのようなイベントや取り組みをしているのかを知る
2	手洗い場の位置により、死角ができてしまう		どの位置に立てば職員全員で利用者全員を見ることができるか、常に支援室の中の状況を把握する
3	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援があまりできていない	利用児の支援プログラムの確立に力を注いでいたため	利用児のさらなる成長のためには、職員と保護者との関わりは必要なことになるので、どのような形で支援をしていくのが望ましいかを考えていきたい